

# 『山陰・山陽スマート観光プロジェクト』を推進！

～ ICTの技術とアイデアで中国各地の観光を元気に！ ～

- 外国人や高齢者に優しく若者を惹きつける新しい観光情報インフラとして期待されるAR(拡張現実技術)・多言語対応を特徴とする“スマート観光情報インフラ”の整備に取り組む自治体等を産学官の連携により支援することを目的として、『山陰・山陽スマート観光プロジェクト』を推進。
- H25.12.16に、推進体制となる『山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会』を設置。  
※本プロジェクトの地域的な展開の展望⇒趣旨に賛同し、自ら主体的に参加する自治体間の連繫をめざす！
- 山陰・山陽の世界遺産のある大田市、広島市、廿日市市及び近隣の出雲市、岩国市などから、山陰・山陽のそれぞれにおいて横に展開・連繫し、さらに、山陰と山陽を連繫し、中国地方全体に広げていくことをめざす。

## 【島根県大田市】

☆世界遺産:石見銀山  
登録:2007年7月



## 【島根県出雲市】

☆出雲大社

●AR・多言語対応アプリ(SkyWare)による「出雲市観光ナビ」を運用中



## 【広島県広島市】

☆世界遺産:原爆ドーム

登録:1996年12月

●平和記念公園周辺で、AR・多言語対応アプリ(Layar)による「広島P2ウォーカー」を運用中



## 【山口県岩国市】

☆錦帯橋・白蛇神社

名勝登録:1922年3月



## 【広島県廿日市市】

☆世界遺産:厳島神社(宮島)

登録:1996年12月



# 『山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会』の概要

## 1 目的(設置要綱第1条) ※協議会は平成25年12月16日に設置

ICT(情報通信技術)の利活用により中国地方の地域の発展に貢献する観点から、**外国人や高齢者に優しく若者を惹きつける新しい観光情報インフラ**として期待される**AR(拡張現実技術)・多言語対応**を特徴とする**スマート観光情報インフラ**の整備に取り組む自治体等を産学官の連携により支援する「**山陰・山陽スマート観光プロジェクト**」を推進することを目的として協議会を設置する。

## 2 事業(設置要綱第3条)

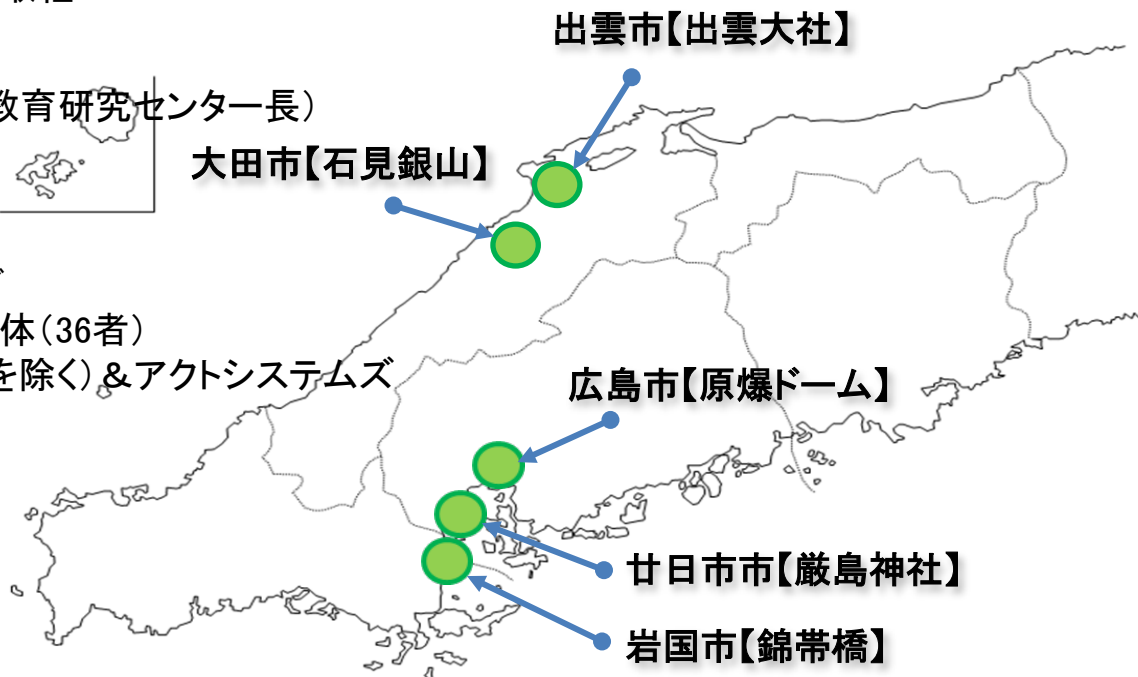
- プロジェクトの推進に係る**スマート観光情報インフラの整備**
- プロジェクトの推進に係る**広報・PR**
- プロジェクトの推進に係る**調査検討**
- その他協議会の目的を達成するために必要な取組

## 3 役員及び会員

- 会長:相原玲二(広島大学教授、情報メディア教育研究センター長)
- 会長代理:脇谷直子(広島修道大学准教授)
- 顧問:齊藤一雅(総務省中国総合通信局長)
- 幹事:NTTドコモ、KDDI、SBM、NHK、中国放送
- 監事:エネルギー・コミュニケーションズ、広島ケーブルテレビ
- 会員:自治体(6団体)、有識者(2名)、企業・団体(36者)
- 共同事務局:中国総合通信局(資金管理事務を除く)&アクトシステムズ

## 4 平成25年度事業計画

- プロジェクトの推進に係る広報・PR**  
:シンポジウムの開催
- プロジェクトの推進に係る調査検討**  
:地域連携のあり方、自立発展型モデルの構築  
:スマート観光コンテンツのリッチ化
- 協議会のホームページの開設等**

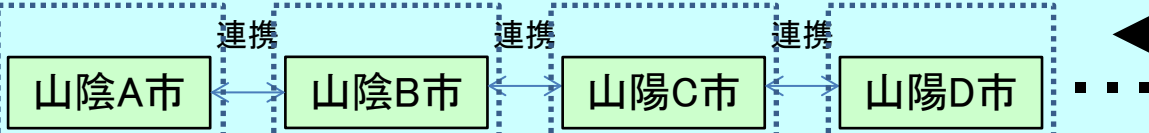


# 『山陰・山陽スマート観光プロジェクト』の全体イメージと協議会の役割

— 外国人や高齢者に優しく若者を惹きつける **“スマート観光情報インフラ”**を整備する自治体等を応援！ —

## スマート観光コンテンツ

- 外国人や高齢者に優しく若者を惹きつけるAR(拡張現実技術)・多言語対応かつリッチな観光コンテンツを整備



## 山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会

- 中国地方のオールIGT(産学官)が連携

- コンテンツのリッチ化(※)等を推進  
※豊富な情報、動画・音声・多言語等

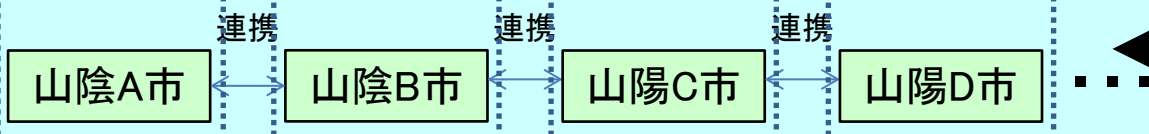
- 広報・PR及び調査検討  
※シンポジウムの開催等

- ARアプリ開発・運営主体と交渉・調整
- 共同化のメリットを自治体等に還元
- ARアプリの改良・改善を要求・協力

- 国や県などと連携し、自治体等を支援・協力

## スマホ・タブレット観光アプリ

- AR(拡張現実技術)・多言語対応
- 地域を越えた共通プラットフォーム(共通の一本のARアプリ)



## 公衆無線LAN(WiFi)ネットワーク

- 外国人に優しい使い勝手のよいWiFiを公共施設・観光施設等に整備